

## 議 事 録

(下関市中心市街地活性化協議会 総会)

日 時 平成28年8月5日(金) 14:00～15:30  
場 所 下関商工会館3階 第2研修室  
出席者 20名～別添名簿(委任状出席者4名含む)  
オブザーバー 6名  
事務局 8名

はじめに、オブザーバーを代表して、中国経済産業局産業部流通・サービス産業課の伊藤氏より挨拶があった。

### 1. 決議事項

- (1) 平成27年度事業報告(案)並びに収支決算(案)について  
事務局より、資料1に基づき、平成27年度事業報告案並びに収支決算案について説明があった。宗村監事より、平成27年度の事業及び会計について、いずれも適正にして正確であるとの監査報告があった。  
平成27年度事業報告案並びに収支決算案について原案どおり承認された。
- (2) 平成28年度事業報告(案)並びに収支予算(案)について  
事務局より、資料2に基づき、平成28年度事業計画案並びに収支予算案について説明があった。  
平成28年度事業計画案並びに収支予算案について原案どおり承認された。
- (3) 会員の加入(亀山八幡宮)について  
事務局より、会員の加入(亀山八幡宮)について説明があった。  
会員の加入(亀山八幡宮)について承認された。

### 2. 報告事項

- (1) 駅周辺部会の進捗及び唐戸部会の設立について  
松永委員より、資料4に基づき、駅周辺部会の進捗について説明があった。  
事務局より、資料4に基づき、唐戸部会の設立について説明が

あった。

オブザーバーの竹中宮司より挨拶があった。

### 3. その他

#### (1) 環境分析及び市民アンケートについて

下関市産業振興部原田課長より、環境分析及び市民アンケートについて説明があった。

松永委員より、下関市の人口減少についてどう考えているのかとの質問があった。

下関市総合政策部企画課山田課長より、平成27年に第2次総合計画をスタートさせており、国の人口の推計値を目安として今後の下関の人口を示している。また地方創生にて地方版のまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、その中の人口ビジョンにおいて国の機関の人口推計値を示している。下関市においても人口減少は避けられない問題であり、この度合いを少しでも緩やかなものにし、人口減少下にあっても活力を失わないまちづくりをするための施策を講ずる旨この計画のなかで述べているとの回答があった。

本間委員より、人口が減っていく事は、全国的な傾向として仕方ないが、人口が減っていく事をおさえる努力をし、交流人口の増加を増やす。下関市は2022年には交流人口1千万人を掲げており、交流人口の増加によるまちの活性化を図ってきたいとの意見があった。

事務局より全市の人口について、平成21年3月と平成26年3月を比較すると4.2%の減少。中心市街地では、2.1%の減少であり、市内全域に比べると半分程度の減少で収まっているとの補足があった。

#### (2) 講話

中小企業基盤整備機構中国本部山崎サポートマネージャーより、中国地域の中心市街地活性化協議会の状況について説明があった。

和田委員より、タウンマネージャーを設置していることの優位性を教えて欲しい。また、周南市の(株)まちあい徳山では金融機関が積極的に関わっている。中国5県における金融機関と中活協議会の関わり方について教えて欲しいとの質問があった。

山崎サポートマネージャーより、タウンマネージャーの設置に

ついでに優劣は判断が難しい。専門人材となる人がいて、その方が中心となって進んでいく事が望ましい。

周南市は榊まちあい徳山ができ、若い社長が西京銀行の建物を利用し、店を出したり、西京銀行がファンドを組んだり支援をしていった。また、百貨店が撤退し、山口銀行がたまたま近くにいたため、百貨店に話をしに行ったという経緯があったとの回答があった。

坂本委員より、下関市の参考になりそうな事例を教えてくださいとの質問があった。

山崎サポートマネージャーより、山口市で若い商業者たちがビルを買い取ったりして動いている。リノベーションでは小倉が全国的に聖地と言われており、たくさんの人が見に来ているとの回答があった。

川上会長より、中央研究機関の山口県への一部移転について紹介があり、JR西日本の活動について河田委員に説明を求めた。

河田委員より、「瑞風」について紹介があった。